

平成28年 9 月14日

各 位

会社名 株式会社メディビックグループ
代表者名 代表取締役社長 窪島 肇
(コード番号 2369 : 東証マザーズ)
問合せ先 代表取締役社長 窪島 肇
(Tel: 03-5439-9691)

平成 28 年 12 月期第 2 四半期報告書に関する四半期レビュー報告書の監査意見不表明に 関するお知らせ

当社は、平成 28 年 12 月期第 2 四半期の四半期連結財務諸表について結論を表明しない旨の四半期
レビュー報告書を本日受領しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 監査及びレビューを実施した監査法人の名称
フロンティア監査法人

2. 監査報告書及び四半期レビュー報告書の内容
平成 28 年 12 月期第 2 四半期報告書に関する四半期レビュー報告書

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に
準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による
重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した
内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビュー
の基準に準拠して実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対す
る結論を表明することにある。

しかしながら、「結論の不表明の根拠」に記載した事項により、当監査法人は、結論の表明の基礎
となる証拠を入手することができなかった。

結論の不表明の根拠

継続企業の前提に関する注記（注）に記載されているとおり、会社は、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失及び営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを前連結会計年度まで継続して計上しており、当第2四半期連結累計期間においても営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上し、この結果、債務超過となっている。また、営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを計上しており、十分な営業活動資金の確保が確実でない状況にある。さらに、会社は株式会社東京証券取引所より、平成28年9月5日付で会社株式を整理銘柄に指定し、1ヶ月後の平成28年10月6日付で上場廃止となる旨の通知を受けている。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在している。当該状況に対する対応策は当該注記に記載されているが、現時点において事業の遂行に必要な資金調達の目処が立っておらず、具体的な計画は提示されなかった。

したがって、当監査法人は、経営者が進めている対応策についての監査証拠等、継続企業を前提として四半期連結財務諸表を作成することに関する十分かつ適切な監査証拠を入手することができなかった。

（注：継続企業の前提に関する注記の内容）

（継続企業の前提に関する注記）

当社グループは、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失及び営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを前連結会計年度まで継続して計上しており、当第2四半期連結累計期間におきましても営業損失163,805千円、経常損失121,222千円、親会社株主に帰属する四半期純損失133,705千円を計上し、この結果、176,734千円の債務超過となっております。また、営業活動によるキャッシュ・フロー△99,939千円を計上しており、十分な営業活動資金の確保が確実でない状況にあります。さらに、当社は株式会社東京証券取引所より、平成28年9月5日付で当社株式を整理銘柄に指定し、1ヶ月後の平成28年10月6日付で上場廃止となる旨の通知を受けております。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループにおきましては、当該状況を解消すべく安定した財務基盤の確立に向けて「事業収益の拡大」を経営の柱として取り組んでおります。

1. 営業活動資金の確保の施策

営業活動資金の確保といたしまして、新たな資金調達の実施を予定しております。当該資金調達での営業活動資金の十分な確保を行うことにより、営業活動資金の不確実性を解消する予定であります。

2. 収益の向上の施策

営業活動の収益改善をするための対応策として、遺伝子事業及び再生医療事業における事業領域の拡大を施策し収益力の改善を行って参ります。

しかしながら、これらの施策は実施途上であるため、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、上記のような継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

結論の不表明

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、「結論の不表明の根拠」に記載した事項の四半期連結財務諸表に及ぼす可能性のある影響の重要性に鑑み、株式会社メディックグループ及び連結子会社の平成 28 年 6 月 30 日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第 2 四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかったかどうかについての結論を表明しない。

3. 四半期報告書に係る監査報告書及び四半期レビュー報告書の受領日

平成 28 年 9 月 14 日

4. 背景及び概要

当社は、平成 28 年 9 月 5 日付「平成 27 年 12 月期有価証券報告書に係る訂正報告書に関する監査報告書の監査意見不表明等に関するお知らせ」にてお知らせしてありますとおり、平成 28 年 8 月 15 日付「第三者委員会の調査報告書受領に関するお知らせ」にて受領した調査報告書に基づき適切な会計処理を行うことで、過年度における有価証券報告書及び四半期報告書にかかる訂正報告書を提出すると共に、訂正決算短信の開示を行いました。平成 27 年 12 月期の訂正後の連結財務諸表について意見を表明しない旨の監査報告書を受領し、平成 28 年 12 月期第 1 四半期の訂正後の四半期連結財務諸表の四半期レビューに関し、結論を表名しない旨の四半期レビュー報告書をすでに受領しております。

当社は、明日平成 28 年 12 月期第 2 四半期の決算短信の開示を行うと同時に平成 28 年 12 月期第 2 四半期報告書の提出する予定でございますが、提出済の平成 28 年 12 月期第 1 四半期訂正報告において当社は、継続企業の前提注記に記載のとおり営業損失、経常損失、当期純損失及び営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを前連結会計年度まで 5 期間以上継続して計上しており、当連結会計年度においても営業損失、経常損失、当期純損失を計上しており、この結果、債務超過となっております。

また、営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを計上するに至っており、十分な営業活動資金の確保が確実ではない状況にあり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しており、現時点において事業の遂行に必要な資金調達の見込みが立っておらず、具体的な計画は提示することが出来ない状況であります。そのため、連結財務諸表及び四半期連結財務諸表に「継続企業の前提に関する注記」を記載しており当該第 1 四半期においても四半期レビュー報告書につきまして意見不表明となっております。

今回の第 2 四半期においてもその状況に変動は無く、さらに、当社は株式会社東京証券取引所より、平成 28 年 9 月 5 日付で会社株式を整理銘柄に指定し、1 ヶ月後の平成 28 年 10 月 6 日付で上場廃止となる旨の通知を受けている状況となり、平成 28 年 12 月期第 2 四半期レビュー報告書についても引き続き意見不表明となりました。

5. 今後の方針

当社といたしましては、今回の監査法人の意見不表明に至った事由を早期に解消すべく新たな資金の確保及び事業における収益の改善に努めて参ります。

このような事態になり、株主の皆様をはじめ、関係者の皆様には、多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますことを心より深くお詫び申し上げます。

以上